

中山町小塩の「お福田田植踊り」に参加して

野口 一雄

中山町小塩の「お福田田植踊り」(中山町無形文化財)について、『小塩の御福田と田植おどり』(丹野 正 昭 35)に、「小塩の御福田は、五穀の豊穰を祈る特殊な正月行事で、郷土芸能である田植踊りを取込んでいる点も、大きな特色であります」と記し、御福田の実況、由来、踊の構成、踊りの特色、曲目と歌詞など、詳細に紹介している。長く中絶していたが昭和 29 年に保存会を結成し、正式に復興した(前書)。以来 70 年、今年は人の一生では古希にあたる。踊の構成は、「前項列の二列、前列には三人のテデ衆とその間に二人の中太鼓が太刀、後列にはソトメ(早乙女)が並びます。いずれも若者で、ソトメは女装」とあり、その構成は現在も同じである。踊りの特色として、「田植踊りにも御福田にも成人式のにおいが感じられる」という。御福田の「祭文」があり、**田植踊りの曲目は、1.「それなえ」**〔代かき、田植え〕、**2.「.とんと挽け」**〔^{もみ}すり〕、**3.「つんばくら」**〔^み箕吹き〕、**4.「御台処」**〔米つき〕、**5.「しかも此処」**〔ほまち田(個人所有の田)の田植え〕、**6.「なんによとさ」**、(附)「こくだい舞」、「ほめ言葉」、「返し言葉」とつづき行事は終了する。

『ふるさとの文化財』「小塩御福田・田植踊り」(中山町 1982)に、「旧正月 20 日〔20 日正月〕の行事とされる。他の田植え踊りと違って、踊りに入る前に部落の北方最上川の上流に聳える『葉山』より食穀守護の霊神・・を招き、お葉山坊が部落内の『分家した家』『嫁をとった家』『新築した家』などを巡り、祭文をあげ、五穀豊穰、無病息災を祈禱する。その後、虫よけの御札を渡して去るという行事が伴う」と紹介されている。

村山民俗初代会長月光善弘は、「小塩の田植踊は、福田行事に続いて行われる。この踊は、平塩寺の舞楽の影響をうけていると思われるものである。(略)行事は、若者組によって行われ、主役の法印を若者がつとめ、(略)祭文は作神としての葉山大権現を勧請し、その功德力によって害虫を防除し、五穀の豊作を祈願する予祝儀礼である」(『東北の一山組織の研究』平成 3 年)と記す。また、『山形県の民俗芸能-山形県民俗芸能緊急報告書-』(平成 7 年、山形県教育委員会)には「田植踊りの項で、『中山町の小塩田植踊りは、農作の神である葉山神が里におりて来て、各家に豊作の祝福を垂れる御福田の行事が田植踊りと結びついた特色ある踊りである』と解説している。「平成 12 年度明治大学居駒ゼミ調査報告書 山形県東村山郡中山町 小塩の民俗」に、伝承行事として、小塩の御福田行事、同田植え踊りとともに、同保存会について紹介報告している。本会会報 123 号(2000.10.13)に、居駒永幸氏の「修験と結びつく」(平成 12.9.29)、同 156 号(2004.4.5)に「現地研修報告」が載っている。